

文化振興の基本方向についての考え方

資料 2 の説明

資料 2 は、骨子案の第 3 章の内容を深め、中間案作成へつなげるために、骨子案の記述を修正する形で作成しました。

資料作成のポイントとしては、

- ・ 文化振興のために文化振興拠点が果たす役割
- ・ 「基本目標と「目標に向けて進める方向」

に 2 点を明確にすることです。

1 三重の文化の現状からみた「今後求められる 4 つのこと」

「三重の文化振興方針（仮称）」（骨子案）第 2 章の記述をより趣旨を明確にするために、下線部分を書き換えてみました。

三重の文化をめぐる現状を踏まえて、これからも三重の文化を保存・継承し、発展させていくために次の 4 つのことが求められます。

誰もが、文化に触れ、親しみ、互いに交流できること

誰もが多様な文化に触れ、親しみ、文化活動に参加できることは、一人ひとりの自己実現と文化の発展につながります。

多様な文化をひろめ、発信すること

多様な文化をひろめ、発信することは、狭い地域で消失しそうになっている地域の伝統文化のよさを再発見したり、他の地域の人によって発展的に引き継がれることなどにつながります。

文化を記録に残して後世に伝えること

文化を記録して後世に伝えることは、文化資産が後世で再発見・再評価され、発展的によみがえることにつながります。

文化を楽しみ、生活やまちづくりに生かしていくこと

文化を楽しみ、生活やまちづくりに生かしていくことは、文化がみんな

のものとして社会全般に浸透し、発展していくことや、現在の生活を豊かにすることにつながります。

(「今後求められる4つのこと」に取り組む場としての文化振興拠点の役割)

「求められる4つのこと」には、文化をひろくみんなのものとしてひろげ、高めていくという視点が共通しています。

図書館や博物館等の文化施設は、文化的資料の収集・保存、普及・学習支援、活動支援、情報発信、交流など多様な機能をもっています。また、地域の公民館や集会所なども、県民が学び、文化活動のための場として重要な役割を果たしています。

これらの施設は、誰にでもひろく開かれた場所として、「今後求められる4つのこと」を進めていく場として重要であり、「文化振興の拠点」と言えます。

文化振興拠点は、県民一人ひとりにとって、あるときは、文化に触れ、互いに交流しあう楽しい時を過ごす場として、またあるときは、先人のことを知り、過去へ思いを馳せる場として、そしてまたあるときは、さまざまなことを調べ、課題の解決を助けてもらえる場として、誰にでも開かれた、一人ひとりの成長と自己実現や地域を支援する場として重要です。

また、地域の文化を記録、研究し、次世代へ発展、継承していくための活動の舞台としても、文化振興拠点は重要な役割を果たします。

とりわけ、図書館、博物館、美術館は、文化的資料の閲覧機能や展示、調査研究機能などをもつことから、文化の保存、継承、発展に寄与し、県民の文化の接点、知的探求の場となる「文化と知的探求の拠点」として大変重要な役割を果たすと考えられます。

また、文化の全般的な振興の視点からは、これらの施設に、文化会館、生涯学習センターが加わって、総合的に「文化と知的探求の拠点」としての機能と役割を果たせるようにすることが、県民と地域文化の発展にとって効果的であると考えられます。あわせて、「文化と知的探求の拠点」としての視点からは、設置が課題となっている公文書館のあり方について検討していくことも必要です。

2 三重の文化振興の基本方向

「三重の文化振興方針（仮称）」（骨子案）第3章の趣旨をより明確にするため、記述の下線部分を書き換えてみました。

（1）基本目標

こんな三重の姿をめざします。

文化は、過去から未来への世代間のつながりとして、継承され、発展してきました。また、文化は、個人の内面より発するものから、地域性を背景としながらも人類共有の普遍的な文化（人権、平和など）となっているものなど世界的なひろがりのなかで互いに交流し、発展してきました。

県民一人ひとりが、多様な文化に触れ親しみ、交流するなかで、楽しみながら、知的好奇心をもって学び、吸収することで、豊かな心と感性を育むとともに、三重の良さを知り、地域への愛着と誇りをもつようになります。

そして、県民一人ひとりが、一人の人間として、社会の一員として、今、あるいは未来に向けて感性と創造性を発揮し、互いを尊重しあって行動することにより、次世代の人と文化を育み、豊かで暮らしやすく、魅力的で活力ある三重の姿を築くことを基本目標としてめざします。

（目標記載例）

A案 過去から未来、個人から世界、その結節点としての「地域の今」を創造的に生きる人と文化を育みます。

B案 “過去から未来へ - 世代のつながり - ” が、地域への愛着と誇りを育み、“個人から地域、そして世界へ - 文化のひろがり - ” が、人の知的好奇心をかき立て、感性を豊かにし、さらに新たな未来を創造する、そんな三重をつくります。

C案 次世代への継承と創造、地域から世界への広がりを大切にした「三重の人、文化を育む土壌づくり」

(2) 文化振興を進める視点

基本目標に向けた取組にあたっては、次の視点を明確にして取り組みます。

協働(パートナーシップ)の視点、誰もが(アクセス権の保障)の視点、文化の多様性を認め合う視点、ユニバーサルの視点、文化における「グローバル」、「ローカル」の視点、評価の視点など

(3) 基本目標に向けて進める方向 ~文化振興拠点からひろげ発展させる人と文化を育む土壌づくり~

基本目標に向けては、「今後求められる4つのこと」を踏まえ、

・一人ひとりが、文化にふれ親しみ、学び、活動することを支援する環境の整備

・地域の文化資産、生活文化の保存、継承

・文化の継承、創造、発展を推進する人材の育成と活動支援

・地域の文化の発信と県内外の幅広く多様な交流

など、幅広い取組を多様な主体で総合的に推進していくことが必要といえます。

また、誰にでも開かれ、多様な資料と情報の閲覧や県民等の活動の場として、交流もできる文化振興拠点においては、人と情報等が互いに影響し、高めあう相乗効果が生まれます。

あわせて、誰もが身近な拠点で文化や学習に関するニーズに応えてもらえる環境は重要です。この点からも身近な文化のアクセスポイントとなるような施設の機能を強化することを進め、文化振興拠点の充実強化を図ることが、人と文化が育まれる「土壌づくり」になると考えられます。

そこで、「文化振興拠点からひろげ、発展させる人と文化の土壌づくり」を基本目標に向けて進める方向とし、具体的に次の点から推進します。

人と文化を育むための役割に応じた県内文化振興拠点の総合的充実強化

県内のさまざまな拠点が、互いに連携しながら、総合的に人と文化を育む環境が整うように、個々の拠点の充実強化、連携による機能向上などを進めます。進める方向としては、地域の公民館など県民の文化への身近なアクセスポイントとなる拠点としての役割、図書館、博物館など

文化との接点・知的探求の場となる拠点としての役割など施設によって期待される役割にそった拠点の充実強化のあり方について明確にします。その上で、多様な主体に期待される役割などを前提にしながら、県の役割に応じた取組を明確にします。

県の「文化と知的探求の拠点」機能の充実強化

県が設置する「図書館」、「博物館」、「美術館」、「文化会館」、「生涯学習センター」は、広域の拠点として、県民一人ひとり等を支援するとともに、身近な拠点や市町の拠点を補完支援する役割を果たすと考えられます。

広域の「文化と知的探求の拠点」として、どのように機能を発揮するべきであるかを明確にして取組を推進します。

さまざまな施策分野と連動した総合的な展開

文化振興の基本的な考え方として、「さまざまな施策分野と連動した総合的な展開」を念頭においた取組を推進します。

文化振興の推進体制や支援策

まず、文化振興拠点から取組を拡げていくにあたって、その推進体制や支援策について明確にします。

☆「文化振興拠点」間の役割連携のイメージ
総合的に文化振興に寄与

